

報告書抄録

ふりがな	とどろきかいづか							
書名	轟貝塚							
副書名	慶應義塾大学資料再整理報告							
シリーズ名	宇土市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	第30集							
編著者名	藤本貴仁							
編集機関	宇土市教育委員会							
所在地	〒869-0433 熊本県宇土市新小路町95							
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯* ° ' "	東経* ° ' "	調査 回数	調査 面積	調査 原因
とどろき かいづか 轟 貝 塚	くまもとけん う と し みやのしょうまち 熊本県宇土市宮庄町 あざ す ぎき 字須崎ほか	43211	遺跡番号	32° 40′ 45″	130° 38′ 27″	6 次	213m ²	学術調査
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物				
轟 貝 塚	貝 塚	縄文時代 中 世	縄文時代：土壇墓、 住居跡、配石遺構 中世：土壇墓、横 堀跡	縄文土器（押型文、塞ノ神式、轟式、曾畑式、 野口式、尾田式、阿高式、南福寺式、市来式、 鐘崎式、北久根山式、御領式など）、石器（石鏃、 磨製石斧、磨石・叩石など）、石笛、骨角器（魚 骨製及び骨製刺突具、簪など）、貝輪、動物遺存 体、弥生土器、円筒埴輪、土師質土器、青磁				
特 記 事 項								
縄文時代早期から後期にわたる土器、石鏃や磨製石斧、磨石・叩石などの石器、石笛、魚骨製及び骨製刺突具や簪などの骨角器、アカガイ製やサルボウ製の貝輪、イノシシやシカなどの動物遺存体などが豊富に出土した。 本調査で設定したA～Eトレンチのうち、A～DトレンチとEトレンチでは、道路を挟んで比較的近接しているにもかかわらず層序が異なる。A～Dトレンチ周辺では阿高式系土器群の時期である中期に純貝層が形成されたと想定され、下層の褐色土層や黒色土層で轟式系土器群が数多く出土した。一方、Eトレンチ検出の純貝層は、市来式などの貝殻条痕文系土器群や北久根山式、鐘崎式などの磨消縄文系土器群が出土する後期の貝層と考えられる。 検出遺構で最も特筆されるのが縄文及び中世の土壇墓である。縄文時代7体、中世1体の計8体の埋葬人骨が出土。Aトレンチでは両腕に貝輪を装着した縄文前期とみられる埋葬人骨を検出し、腹部付近でマイワシやカタクチイワシなどの食物残渣を確認した。また、Eトレンチでも縄文後期とみられる埋葬人骨が3体出土し、土師質土器が副葬された中世の埋葬人骨も1体出土した。 弥生時代から中世までの遺物も出土しており、円筒埴輪の出土から古墳時代中期末頃から後期初頭（5世紀後半から末頃）に当地に古墳が存在したことが判明。また、中世居館に伴うとみられる横堀跡を検出した。								

※北緯及び東経の数値は世界測地系を使用。

宇土市埋蔵文化財調査報告書 第30集	発行年月日	2008年3月31日
編集・発行	熊本市埋蔵文化財調査報告書 第30集	発行所
〒869-0433 宇土市新小路町95	TEL 0964-22-6500(代) FAX 0964-58-1005	
印刷	コロニー印刷	
〒860-0051 熊本市二本木3丁目12-37	TEL 096-353-1291(代) FAX 096-353-1294	

轟 貝 塚

一 慶應義塾大学資料再整理報告 一 宇土市埋蔵文化財調査報告書 第30集

発行年月日 2008年3月31日

編集・発行 熊本市埋蔵文化財調査報告書 第30集

〒869-0433 宇土市新小路町95

TEL 0964-22-6500(代) FAX 0964-58-1005

印刷 コロニー印刷

〒860-0051 熊本市二本木3丁目12-37

TEL 096-353-1291(代) FAX 096-353-1294